

秘

海軍公報 第四八四九號

昭和十九年十一月十一日(土)
海軍大臣官房

○令 達

内令第一二二九號

汽船 天應丸

右特設病院船トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク
昭和十九年十一月一日

海軍大臣

内令第一二三〇號

左ノ船舶ヲ特設艦船トシ其ノ種別及所管ヲ左ノ通定ム

昭和十九年十一月一日

海軍大臣

船舶名	特設艦船種別	所管
汽船 第二米川丸	特設病院船	横須賀鎮守府

内令第一二三一號

驅逐艦 葛

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

第四十七號海防艦

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

秘海軍公報 第四八四九號 昭和十九年十一月十一日

海防艦 宇久

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

横須賀鎮守府在籍

第四十七號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

第四百十二號輸送艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

昭和十九年十一月二日

海軍大臣

内令第一二三二號

第三十七號海防艦

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

横須賀鎮守府在籍

第三十七號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和十九年十一月三日

海軍大臣

内令第一二三三號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

四七五

0285

昭和十九年十一月五日

海軍大臣

驅逐艦、一等松型ノ項中「葛」ノ下ニ「萩、董」ヲ加フ
海防艦、御藏型ノ項中「崎戸」ノ下ニ「目斗」ヲ、同第一號
型ノ項中「第六十九號」ノ下ニ「第七十一號、第七十三號」
ヲ、「第九十三號」ノ下ニ「第一百號」ヲ、「第二百七號」ノ
下ニ「第二百十三號」ヲ、「第二百十九號」ノ下ニ「第二
百二十一號」ヲ加フ

(内令提要卷三、三三頁參照)

内令第一二三四號

特務艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十一月五日

海軍大臣

特務艇、敷設特務艇ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第一號、第二號、第三號、
第四號、第五號、第六號、
第七號、第八號、第九號、
第二十五號、第二十六號、第三十一號、
第三十二號、第三十七號、第三十八號、
第三十九號、第四十號、第四十一號、
第四十二號、第四十三號、第四十四號、
第五十五號、第五十六號、第五十七號、
第六十四號、第六十五號、第六十六號、
第六十七號、第六十八號、第六十九號、

哨戒特務艇 第一號型

第七十號、第七十一號、第八十四號、
第八十五號、第九十號、第九十一號、
第九十二號、第九十三號、第九十四號、
第九十五號、第九十六號、第九十七號、
第一百號、第一百十一號、第一百十二號、
第一百二十三號、第一百二十四號、
第一百二十五號、第一百二十六號、
第一百二十七號、第一百二十八號、
第一百二十九號、第一百三十號、
第一百三十四號、第一百三十五號、
第一百三十七號、第一百三十八號、
第一百三十九號、第一百四十號、
第一百五十二號、第一百五十三號、
第一百五十四號、第一百五十五號、
第一百六十三號、第一百六十四號、
第一百六十五號、第一百六十六號、
第一百七十三號、第一百七十四號、
第一百七十五號、第一百七十六號、
第一百七十七號、第一百七十八號、
第一百七十九號、第一百八十一號、
第一百八十三號、第一百八十四號、
第一百八十五號、第一百八十六號、
第一百八十七號、第一百八十八號、
第一百九十一號、第一百九十二號、
第一百九十三號

同魚雷艇第二百一號型ノ項中「、第四百二號」ヲ、「第四百九號」
ヲ、「第四百五十三號、第四百五十四號」ヲ、同第四百一十一號型ノ
項中「第四百一十一號、」ヲ削ル

(内令提要卷三、四三頁參照)

内令第一二三五號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト假定ス

驅逐艦 萩
同 董

第七十一號海防艦

第七十三號海防艦

右本籍ヲ吳鎮守府ト假定ス

<p>海防艦 目 斗</p> <p>第二百十三號海防艦 第二百二十一號海防艦 第一百一號海防艦</p> <p>右本籍ヲ佐世保鎮守府ト假定ス 右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト假定ス</p> <p>昭和十九年十一月五日</p> <p>海軍大臣</p>	<p>内令第一二三六號</p> <p>自第一號哨戒特務艇 至第九號哨戒特務艇 第二十五號哨戒特務艇 第二十六號哨戒特務艇 第三十一號哨戒特務艇 第三十二號哨戒特務艇 自第三十七號哨戒特務艇 至第四十三號哨戒特務艇</p> <p>右本籍ヲ橫須賀鎮守府ト假定ス</p> <p>自第一百號哨戒特務艇 至第一百十二號哨戒特務艇 自第一百二十二號哨戒特務艇 至第一百二十四號哨戒特務艇 自第一百三十四號哨戒特務艇</p>
<p>右本籍ヲ吳鎮守府ト假定ス</p> <p>至第四百十號哨戒特務艇 自第五百五十二號哨戒特務艇 至第五百五十五號哨戒特務艇 自第五百六十三號哨戒特務艇 至第五百六十五號哨戒特務艇 自第五百七十三號哨戒特務艇 至第五百七十五號哨戒特務艇 自第五百七十九號哨戒特務艇 至第五百八十一號哨戒特務艇 自第五百九十一號哨戒特務艇 至第五百九十三號哨戒特務艇</p>	<p>右本籍ヲ佐世保鎮守府ト假定ス</p> <p>自第五十四號哨戒特務艇 至第五十七號哨戒特務艇 自第六十四號哨戒特務艇 至第七十一號哨戒特務艇 第八十四號哨戒特務艇 第八十五號哨戒特務艇 自第九十號哨戒特務艇 至第九十七號哨戒特務艇</p> <p>右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト假定ス</p> <p>昭和十九年十一月五日</p> <p>海軍大臣</p>

内令兵第八四號

假稱二式二五番三號爆彈二型ヲ兵器ニ採用シ二式二五番三號爆彈二型ト呼稱ス

昭和十九年十一月十日

海軍大臣

官房空機密第二七八七號

昭和十八年官房教機密第二七三號中普通科兵器整備術練習生(寫真專修)修業期間「四月」ヲ「五月」ニ改ム

昭和十九年十一月九日

海軍大臣

○通牒

官房備機密第六三五號

昭和十九年十一月八日

海軍省副官

關係各廳長殿

海流通報實施規程類處分ニ關スル件通牒

八月十八日附兵備三機密第七三八號申進(八月二十一日部内限公報参照)ニ關聯シ左記規程ハ便宜上燒却ノ上所要ノ向ニ報告相成度

記

海軍省秘第三八號 海軍海流通報規程

軍務一機密第一〇五六號

昭和十九年十一月九日

海軍省軍務局長

關係各所轄長殿

普通科飛行機整備術練習生(修補專修)出身
整備兵指導ニ關スル件申進

首題整備員近ク部隊配員ノコトト相成候處其ノ主旨ハ飛行機整備能力向上ノ爲飛行科ニ鍛金ヲ主體トセル修補力ヲ保有セシムルニ在ルヲ以テ左記参照ノ上其ノ指導教育ヲ徹底シ以テ之ガ全能發揮ニ萬遺憾ナキヲ期セラレ度

記

- 一 本整備員ハ基礎整備術ノ外ニ基礎修補術ヲ修得シアルヲ以テ簡單ナル整備作業(部品換裝等)ノ外修補作業ニ従事セシメ修補並ニ整備兩技術共其ノ向上ヲ圖ルコト
- 二 修補長ハ本整備員ノ修補術ニ關スル教育指導ニ對シ飛行長ト連絡ヲ密ニシ飛行機修補並ニ整備ニ關シ積極的ニ協力スルコト
- 三 本整備員ハ飛行科整備分隊ニ配員スルモノトシ差當リ鍛金八名、熔接一名、木具一名ヲ標準トシテ一個班ヲ編制シ班毎ニ適當ナル班長(現在修補科ニ配員シアル鍛金專修ノ工作兵曹等)ヲ配置スルコト
- 四 本整備員ガ其ノ能力ヲ發揮スル爲ニ必要ナル器具(機體補修要具筐)ハ差當リ一個班ニ就キ三組ヲ標準トシテ準備シテ

ルニ付之方活用ヲ圖ルコト
尙供給間ニ合ハザルガ如キ場合ニ於テハ右ニ倣ヒ自隊ニテ作
製シ作業實施上遺憾無カラシムルコト

兵備ニ機密第二一四七號
昭和十九年十月三十一日

海軍省兵備局長

關係各廳長殿

屑ゴム及再生ゴム處理ニ關スル件照會

首題ニ關シ昭和十七年十月三十一日兵備ニ機密第九九二號(十
一月二日附公報部内限四二三二號掲載)ヲ以テ處理要領ヲ通牒
セル次第ナル處之方實際ノ取扱ハ各廳ニ依リ依然區々ニ涉リ屑
ゴム及粉末ゴム配給統制規則ニ依ル取扱上疑義ヲ免レザル場合
モ尠カラズ首題品一元の統制上支障アルヤニ及聞候條本處理要
領ノ勵行方取計相成度

追テ日本再生ゴム材料卸商業組合聯合會ハ本年五月一日改組
シ全日本再生ゴム材料統制組合(所屬組合及區域別紙ノ通)
トナリタルニ付爲念

(別紙添)

航本機密第一三八二五號

昭和十九年十一月九日

海軍航空本部長

關係各廳長殿

秘海軍公報 第四八四九號 昭和十九年十一月十一日

VDMプロペラ變節管改造ニ關スル件通牒
首題ノ件左記ニ依リ實施相成度

一 目的

(イ) E1シヤンク用變節管注油栓ノ位置ヲ變更シ整備ヲ容易
ナラシムルニ在リ

(ロ) 變節管、起動部、固定金具竝ニ機械式ピッチ制限裝置取
付用4φ平小ネヂノ材質ヲ變更シ強度ヲ増大スルニ在リ

二 實施要領

(イ) 項ニ對シ
既製ノモノニ對シテハ注油栓ヲ胴棒上方ニ新設ス(組立圖
番「ブ八三三二〇」ニ依ル)

(ロ) 項ニ對シ
現在材質イ〇〇三製平小ネヂナルヲイ二〇四、二〇六又ハ
之レノ代用鋼製平小ネヂニ改ム(第六項記載ノ部品ヲ使用
ス)

三 要改造變節管

(イ) 項ニ對シ
紫電、流星竝ニ雷電既製品全部(別表)

(ロ) 項ニ對シ
既製變節管全部

四 施行廳及部隊

(イ) 項ニ對シ

○ 雜 款

○出張所移轉
當部アンボン出張所ハ「マカツサル」ニ進出セリ
(第三海軍補充部)

○事務開始
第五監視艇隊ハ十月五日浮島丸司令部内ニ於テ事務ヲ開始セリ
第六十八號海防艦艇裝具事務所ヲ十月三十日神戸市兵庫區東出町一丁目神戸海軍監督官川崎出張所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○残務整理
第五十六防空隊ハ八月五日附解除第二十五特別根據地隊ニ編入シ残務整理ハ司令部内ニ於テ之ヲ行フ

○本日軍極秘海軍公報第三二號及同第三三號(各乙配付)發行セリ
第三二號配付先
各司令部、各航空隊
第三三號配付先
各司令部、海軍水雷學校、臨時魚雷艇訓練所

○本日海軍公報發行セズ

(ロ) 空技廠(住友利用ニ依ル)
項ニ對シ

空技廠、津工廠、第二、第十二、第二十一、第二十二、第六十一空廠、及關係各航空隊
改造期日

(イ) 項ニ對シ

十月末日迄成ル可ク速ニ左ノ順序ニヨリ實施ス

(一) 各監督官事務所保管ノモノ

(二) 各航空隊

(ロ) 項ニ對シ

E1シヤンクハ注油栓位置變更ト同時ニ實施シ其ノ他ハ保管應ノ請求又ハ修理ノ都度行フモノトス

六 改造部品
(イ) 項ニ對シ

二空廠納入豫定ノ改造用注油栓ヲ使用ス

(ロ) 項ニ對シ

第二、第十二、第二十一、第二十二、第六十一各航空廠納入豫定ノ改造用平小ネヂヲ使用ス

(註) 改造用平小ネヂハ識別上左ノ記號ヲ附シアリ

① 識別線 (②) トセルモノ小數アリ

七 所要經費

臨時軍事費、臨時軍事費、造船造兵及修理費、造修費(空)支辨トス
(別表添)

(兵備二機密第二一四七號別紙)

(昭和十九年十一月十二日秘海軍公報)

全日本再生ゴム材料統制組合所屬組合及區域			
所屬組合名	所在地	電話番號	區域
北海道再生ゴム材料統制組合	小樽市奥澤町六ノ六一	小樽 四一九五	北海道二回
東部再生ゴム材料統制組合	東京都荒川區日暮里町一ノ一、七 九三	根岸 二六三四 四九四七	青森縣、岩手縣、秋田縣、宮城縣、山形縣、福島縣、栃木縣、群馬縣、茨城縣、埼玉縣、東京都、千葉縣、神奈川縣
中部再生ゴム材料統制組合	名古屋市中川區運河通り二ノ三一	中川 一一五二	新潟縣、長野縣、山梨縣、靜岡縣、富山縣、岐阜縣、愛知縣、石川縣、福井縣
關西再生ゴム材料統制組合	大阪市東成區中川町四ノ一五	天王寺 四三三八 九三七〇	三重縣、滋賀縣、京都府、大阪府、奈良縣、和歌山縣、香川縣、德島縣
中國再生ゴム材料統制組合	神戸市葦合區濱邊通り二ノ九	葦合 一七八三	兵庫縣、岡山縣、鳥取縣、愛媛縣、高知縣、廣島縣、山口縣、島根縣
九州再生ゴム材料統制組合	久留米市東町一二	久留米 四二四三 三七五五	福岡縣、大分縣、佐賀縣、長崎縣、熊本縣、宮崎縣、鹿兒島縣、沖繩縣

0291

(航本機密第一三八二五號別表)

E-J シヤンク變節筒、注油栓要改造プロペラ(既出荷ノモノ)
紫電用プロペラ 計 二六四個

(昭和十九年十一月十一日祕海軍公報)

製造番號	數量	製造番號	數量
自六二三七四—至六二四八三	一一〇	自六二六九〇—至六二六九三	四
自六二四八七—至六二四八八	二	六二六九五	一
自六二四九一—至六二四九三	三	六二六九九	一
自六二四九七—至六二四九八	二	自六二七〇一—至六二七〇四	四
自六二五〇〇—至六二五〇一	二	自六二七〇七—至六二七〇九	三
自六二五〇三—至六二五〇五	三	自六二七一〇—至六二七一三	三
自六二五〇七—至六二五一〇	四	自六二七一五—至六二七一八	四
自六二五一一—至六二五一六	五	自六二七二〇—至六二七二二	二
六二六一〇	一	自六二七二三—至六二七三四	二
自六二六一二—至六二六一六	五	自六二七三六—至六二七四六	一一
六二六一九	一	自六二七四九—至六二七五二	四
自六二六一一—至六二六六二	四二	自六二七五七—至六二七五八	二
自六二六六四—至六二六六七	四	自六二七六〇—至六二七六二	三
自六二六六九—至六二六七〇	二	自六二七六四—至六二七七一	八
自六二六七二—至六二六八七	一六		

流星用プロペラ 計 二二個

製造番號	數量	製造番號	數量
自六〇八四三—至六〇八四七	五	六二七七九	一
自六二〇四八—至六二〇五七	一〇	六二七八二	一
自六二七七四—至六二七七七	四		

雷電用プロペラ 計 一六九個

製造番號	數量	製造番號	數量
自六二五四一—至六二六〇八	六八	六二八九〇	一
自六二七九六—至六二八五四	五九	自六二八九二—至六二八九三	二
自六二八五六—至六二八六〇	五	自六二八九五—至六二九〇一	七
六二八六二	一	六二九〇四	一
六二八六五	一	自六二九〇八—至六二九〇九	二
六二八六九	一	自六二九一二—至六二九一四	三
自六二八七一—至六二八八八	一八		

0292

海軍公報 號外

○勅語

官房軍第一二四二號

本日支那派遣軍總司令官及支那方面艦隊司令長官ニ對シ左ノ勅語ヲ賜ハリタリ

昭和十九年十一月十一日

海軍大臣

勅語

中南支方面ニ作戰セル軍ノ將兵ハ約半歲ニ互リ至難ナル機動作戰ヲ敢行シ瘡痍ヲ冒シ艱苦ニ堪ヘ隨處ニ在支米空軍ノ根據ヲ擊摧シテ克ク作戰目的ヲ達成シ以テ全局ノ作戰ニ寄與セリ朕深ク之ヲ嘉尙ス

昭和十九年十一月十一日(土)

海軍大臣官房

海軍公報 號外

秘

海軍公報 第四八五〇號

昭和十九年十一月十三日(月)
海軍大臣官房

○令 達

内令第一二三七號

第二百四十五號驅潛特務艇

右本籍ヲ佐世保領守府ト定ム

昭和十九年十一月五日

海軍大臣 臣

内令第一二三八號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十一月五日

海軍大臣 臣

佐世保防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百三十四號(佐)」ノ次ニ「第二百四十五號(佐)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

官房經機密第一七七一號

昭和十九年官房經機密第一二二三號中左ノ通改正ス

昭和十九年十一月九日

海軍大臣 臣

第三號中(ル)ヲ左ノ如ク改ム

(ル) 其ノ他

學校 教育諸費、雜費
病院 患者費、雜費
經理部 雜給及雜費、雜費
其ノ他ノ各部 各本來當該科目
附則

本令ハ昭和十九年十月十日ヨリ之ヲ適用ス

(參照) 昭和十九年官房經機密第一二二三號ハ寄宿舎ニ收容ノ雇員傭人及工員(職員ヲ含ム)ニ寢具損耗料ヲ支給スルノ件ナリ
(昭和十九年八月十三日秘海軍公報)

官房人第一一五五號

昭和十七年官房第七〇八八號中左ノ通改正ス

昭和十九年十一月十日

海軍大臣 臣

第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四 鎮守府司令長官又ハ警備府司令長官ハ前號以外ノ海軍兵ニシテ身體ノ都合ニ依リ又ハ特殊ノ學術技能等ヲ有シ其ノ兵種ヲ變更スルヲ適當ト認ムルモノアルトキハ各月二十名以內其ノ兵種ヲ變更スルコトヲ得

(諸例則卷二、一〇頁參照)

秘海軍公報 第四八五〇號 昭和十九年十一月十三日

一四八一

0294

公稱番號	船種	所屬	定數別		記事
			定數	記	
官房軍第一二二四〇號 雜役船ノ所屬等ヲ左ノ通變更ス 昭和十九年十一月十一日	船	海軍大臣			
官房軍第一二二四一號 雜役船ノ所屬ヲ左ノ通變更ス 昭和十九年十一月十一日	船	海軍大臣			
公稱番號	船種	所屬	定數別	記事	
第一六四號	内火艇 (十二米)	松山海軍航空隊 宇和島分遣隊	定數 舊軍艦非搭載内火艇(M七九四)		
官房軍第一二二四〇號 雜役船ノ所屬等ヲ左ノ通變更ス 昭和十九年十一月十一日	船	海軍大臣			
公稱番號	船種	所屬	定數別	記事	
第三九七號	水艇 (百噸積) 重油船 (百噸積)	横須賀海軍施設部(第四施設部供用)	定數 横須賀海軍軍需部 臨時附屬		
官房軍第一二二四一號 雜役船ノ所屬ヲ左ノ通變更ス 昭和十九年十一月十一日	船	海軍大臣			
公稱番號	船種	所屬	定數別	記事	
第一〇九號	飛行機救難船 (二百噸)	岩國海軍航空隊	定數 龍岡海軍航空隊 山分遣隊		
官房軍第一二二四一號 雜役船ノ所屬ヲ左ノ通變更ス 昭和十九年十一月十一日	船	海軍大臣			

第一五三五號	同	同	同	同	小松島海軍航空隊	同
第一五四〇號	同	同	同	同	山本海軍航空隊	同
第八八七號	曳船兼交通船 (百五十噸)	同	同	同	横須賀海軍航空隊 大分分遣隊	同
第一〇〇三號	内火艇 (十二米)	同	同	同	關東海軍航空隊	同
第九三二號	飛行機救難船 (百五十噸)	同	同	同	同	同
第九二〇號	内火艇 (十二米)	同	同	同	同	同
第九七一號	同	同	同	同	同	同
第九〇四號	内火艇 (十五米)	同	同	同	九州海軍航空隊	同
第八〇五號	カッター (九米)	同	同	同	同	同
第六〇四號	内火艇 (十米)	同	同	同	同	同
第三三三號	内火艇 (十二米)	同	同	同	松島航空基地	同
第一九七三號	カッター (九米)	同	同	同	同	同
自第一九七五號 至第一九八〇號	同	同	同	同	同	同
第六七五二號	傳馬船 (十二米)	同	同	同	同	同
第六七五三號	傳馬船 (十二米)	同	同	同	同	同
第一四一三號	特型運貨船 (十四米)	同	同	同	同	同
第二二五號	同	同	同	同	同	同
自第六五五號 至第六五九號	泥受船 (八坪積)	同	同	同	同	同

0295

考 備	數	佐世保鎮守府	三	舞鶴鎮守府	二
	修業期間	約三月半			

本學生ヲ修習シタル者ハ之ヲ高等科兵器整備術ノ航空砲波兵器整備術專修者ト看做シ又本學生教程修了ノ際特務士官タルモノハ之ヲ海軍整備兵曹長出身者ト看做シ准士官タルモノハ海軍武官任用令第二十九條第一項ノ規定ニ依リ海軍整備兵曹長ニ之ヲ任用スルモノトス

○ 通 牒

兵備二機密第一八號ノ三五
昭和十九年十一月十一日

海軍省兵備局長
海軍省軍需局長

關係各廳長 殿

石油類消費節減強化ニ關スル件申進

戰局ノ推移ト共ニ石油事情ノ逼迫甚シキモノ有之各廳用及充足軍需用石油類ハ劃期的規正斷行ノ要アルヲ以テ第三、四半期以降ハ從來ノ約半量程度ニ削減ノ已ムナキ實狀ニ有之候條實情諒察ノ上消費節約ニ關シ格段ノ指導善處方取計相成度尙自動車用其ノ他ノ代用燃料化ハ此ノ際特ニ之方促進ニ關シ手配相成度

海人第四九九號

昭和十九年十一月十一日

海軍省人事局長

各鎮守府參謀長
關係各海軍人事部長
關係各所轉長 殿

整備科下士官兵統制配員ニ關スル件通牒

海人第四三四號通牒首題ノ件中第二期實施時期ヲ十二月二日トシ之方實施ニ關シテハ左記ノ通處理ノコトニ取計相成度

記

- 一 昭和十九年十一月三十日迄ノ配員ハ從前通下シ十二月一日以後ノ配員ニ關シテハ海軍省人事局ヨリ通牒ス
- 二 關係各所轉長ハ本年官房人第九一七號(七)ニ依ル十二月一日現在整備員(下士官兵)配置表ヲ成ルベク速ニ送付ノコト

軍需機密第六四一號

昭和十九年十一月十日

海軍省軍需局長

各海軍軍需部長
各特設海軍軍需部長 殿

艦營需品供給停止、供給制限、代用品利用及規格低下ニ關スル件中改正ノ件申進

昭和十八年軍需機密第五七七號申進首題ノ件中左記ノ通改正セラレ候

記

供給停止品

區分	主管別	區別	品名	事
追加	主計長	消耗品	經理規程用紙(第十號書式)甲	

0297

○ 雜 款

○ 出張所設置

第一海軍衣糧廠京城出張所ヲ十一月十六日朝鮮京城府旭町京城在勤海軍武官府内ニ設置セリ

(第一海軍衣糧廠)

○ 事務開始

第二百十五號海防艦艇裝員事務所ヲ十一月五日新潟市附船町新潟鐵工所新潟工場内ニ設置シ事務所ヲ開始セリ

○ 事務所撤去

吳潜水艦基地隊内第五十一潜水隊殘務整理事務所ハ十月三十一日之ヲ撤去セリ

第四十七號海防艦艇裝員事務所ハ十一月二日之ヲ撤去セリ

第六十號海防艦艇裝員事務所ハ十一月八日之ヲ撤去セリ

追テ本艦ヘノ轉勤者ハ佐伯ニ向ケ赴任セシメラレ度

○ 轉勤者赴任先

自今當隊ヘノ轉勤者ハ總テ谷田部航空基地ヘ向ケ赴任セシメラレ度

(神ノ池海軍航空隊)

自今當航空隊中左記飛行隊ヘノ轉勤者ハ各肩書ノ地ニ旅行赴任セシメラレ度

記

一 愛知縣瀨美郡豊橋海軍航空隊

第七六二海軍航空隊

攻撃第五〇一飛行隊

攻撃第二六二飛行隊

二 鹿兒島縣鹿兒島市鹿兒島航空基地

第七六二海軍航空隊

偵察第一一飛行隊

(第七六二海軍航空隊)

合同海軍葬儀執行

期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場 所	記 事
十一月二十日 二〇〇〇	故海軍少佐夏目平八郎外諸勇士	名古屋地方海軍人事部長	大谷派本願寺名古屋別院	佛式
十一月二十九日 一〇〇〇	故海軍少佐蕪城善吉外諸勇士	金澤地方海軍人事部長	金澤東本願寺別院	同

秘海軍公報 第四八五〇號 昭和十九年十一月十三日

一四八五

0298

秘海軍公報 第四八五〇號 昭和十九年十一月十三日

○本日軍極秘海軍公報第三四號（甲配付）發行セリ

一四八六

0299

秘

海軍公報號外(位勳)

昭和十九年十一月十三日(月)
海軍大臣官房

<p>○ 叙位</p> <p>○ 昭和十九年九月十五日</p> <p>海軍中尉 村上 義夫</p> <p>叙從七位</p> <p>海軍少尉 隱岐 憲一</p> <p>叙正八位</p> <p>○ 昭和十九年九月二十四日</p> <p>海軍大尉 高橋 重雄</p> <p>叙正七位</p> <p>○ 昭和十九年九月二十六日</p> <p>海軍中尉 井澤 善治</p> <p>同 高橋 久雄</p> <p>叙從七位</p> <p>○ 昭和十九年九月二十八日</p> <p>海軍少佐 牧 幸男</p> <p>叙從六位</p> <p>海軍中尉 宮元 政行</p> <p>同 瀧原 舜</p> <p>同 堤田 淳之</p> <p>叙從七位</p>	<p>○ 昭和十九年九月三十日</p> <p>海軍少佐 南田 政吉</p> <p>叙正六位(特旨ヲ以テ位一級追陞セラレ)</p> <p>○ 昭和十九年十月一日</p> <p>海軍中尉 深谷 茂男</p> <p>叙從七位</p> <p>○ 昭和十九年十月二日</p> <p>海軍中尉 鈴木 久夫</p> <p>同 井上 靜明</p> <p>叙從七位</p> <p>○ 昭和十九年十月三日</p> <p>海軍大尉 武田 昌男</p> <p>叙正七位</p> <p>海軍少尉 正田 輝彦</p> <p>同 岡田 六郎</p> <p>叙正八位</p> <p>○ 昭和十九年十月四日</p> <p>海軍中尉 佐々木 功</p> <p>叙從七位</p> <p>○ 昭和十九年十月六日</p> <p>海軍少佐 安部 醇</p> <p>叙從六位</p>	<p>叙從七位</p> <p>海軍中尉 内山 敏行</p> <p>○ 昭和十九年十月七日</p> <p>海軍大尉 岡本 俊也</p> <p>叙正七位</p> <p>海軍中尉 山本 秀夫</p> <p>叙從七位</p> <p>海軍少尉 甲光 久史</p> <p>同 古關 廣治</p> <p>叙正八位</p> <p>○ 昭和十九年十月九日</p> <p>海軍大尉 森本 和次</p> <p>海軍理事官 西村 房一</p> <p>叙正七位</p> <p>海軍中尉 西村 秋廣</p> <p>同 伊藤 正龜</p> <p>同 高井 國夫</p> <p>同 竹内 肇</p> <p>叙從七位</p> <p>○ 昭和十九年十月十一日</p> <p>海軍中尉 松田幸四郎</p> <p>叙從七位</p>
---	--	---

秘海軍公報 號外(位勳)

0300

<p>○昭和十九年十月十三日</p> <p>海軍中將 山口 眞澄</p> <p>敘正四位(特旨ヲ以テ位一級被進)</p> <p>海軍中尉 山田 實</p> <p>敘從七位</p> <p>海軍少尉 高橋 彌八</p> <p>缺正八位</p> <p>○昭和十九年十月十四日</p> <p>海軍大尉 山根 光</p> <p>敘正七位</p> <p>海軍中尉 春名 俊介</p> <p>同 大賀 亘</p> <p>敘從七位</p> <p>○昭和十九年十月十五日</p> <p>海軍少尉 松波竹二郎</p> <p>敘正八位</p> <p>○昭和十九年十月十六日</p> <p>海軍大將 豊田 副武</p> <p>敘正三位</p> <p>(通各)</p> <p>海軍司政長官 鮫島 茂</p> <p>海軍技師 小野 龍一</p> <p>敘正四位</p> <p>海軍司政長官 杉山 俊郎</p> <p>敘正五位</p> <p>海軍中佐 松本 弘</p> <p>敘從五位</p>	<p>(通各)</p> <p>海軍大尉 田附 政一</p> <p>海軍大尉 岩田徳三郎</p> <p>海軍中尉 黒木清三郎</p> <p>海軍中尉 宮川 晋吉</p> <p>同 佐藤 東七</p> <p>海軍司政官 原口 一次</p> <p>海軍司政官 森 博</p> <p>同 大島 益太</p> <p>同 清水加保太郎</p> <p>同 宇都宮 靜男</p> <p>同 谷口 繁樹</p> <p>同 大野 政信</p> <p>同 星野 義人</p> <p>同 伊藤 利夫</p> <p>同 相川 武</p> <p>同 松崎 壽和</p> <p>同 豊川 博吉</p> <p>海軍技師 鈴木 博</p> <p>海軍兵曹長 植田 源次</p> <p>同 吉村 淺市</p> <p>同 久保善次郎</p> <p>同 塚本 傳次</p> <p>同 米澤 初</p> <p>敘從七位</p>	<p>(通各)</p> <p>海軍少尉 池田 秀盛</p> <p>海軍警査 植村 新吾</p> <p>敘正八位</p> <p>○左記進級セル者ニシテ相當位以上ノ位ヲ有セザル者ハ昭和十九年十月十六日附孰モ各官相當位ニ叙セラレタリ</p> <p>記</p> <p>昭和十九年九月十五日進級ノ</p> <p>海軍中尉 岡本 匡布以下</p> <p>同 鈴木 敏夫以下</p> <p>昭和十九年九月三十日進級ノ</p> <p>海軍司政長官 水越 幸一以下</p> <p>昭和十九年十月二日進級ノ</p> <p>海軍司政官 三浦 武治以下</p> <p>○昭和十九年十月二十日</p> <p>元海軍技師 山口 秀夫</p> <p>同 岡藤 一雄</p> <p>敘從五位(特旨ヲ以テ位一級被進)</p>
<p>○昭和十九年十月十二日發令</p> <p>假題(西)五五五 海軍少將 大野 竹二</p> <p>同(西)五五六 同 西岡喜一郎</p> <p>同(西)五五七 海軍軍醫少將 長谷川 靜一</p> <p>敘勳二等授瑞寶章</p>	<p>○叙 勳</p>	

假勳西三六八	海軍大佐	松尾 祐一
同 西三六九	同	赤羽 龍熊
(通各) 同 西三七〇	海軍中佐	久保 時朗
同 西三七一	海軍中佐	中村 正道
同 西三七二	海軍主計中佐	柴倉 壽夫
同 西三七三	海軍主計中佐	並河 恒雄
假勳西三七四	海軍少佐	佐藤 清忠
同 西三七五	同	左近 佐久美
同 西三七六	同	渡邊 信吉
(通各) 同 西三七七	海軍少佐	矢野 昌三郎
同 西三七八	海軍主計少佐	相馬 愛次郎
同 西三七九	同	小堀 雅美
同 西三八〇	同	下川 國司
同 西三八一	同	片山 博道
假勳西三八二	海軍少佐	北島 一良
同 西三八三	海軍大尉	光安 守
同 西三八四	同	前本 正
(通各) 同 西三八五	海軍技師	高橋 勝衛
同 西三八六	同	庄司 睦太郎
同 西三八七	海軍理事官	安島 安
同 西三八八	海軍理事官	森 達雄
同 西三八九	海軍教授	河緒 源治
假勳西三九〇	海軍技術大尉	橋川 正夫
同 西三九一	同	長井 謙次

假勳西三九二	海軍技師	小野田 雄次
同 西三九三	同	重河 榮
(通各) 同 西三九四	海軍技師	波多 朝
同 西三九五	同	太田 正之
同 西三九六	同	藤上 將應
同 西三九七	同	清水 末藏
同 西三九八	同	下内 八郎
同 西三九九	同	石橋 爲三
同 西四〇〇	同	原 信治郎
同 西四〇一	同	船越 佐一郎
(通各) 同 西四〇二	同	竹内 六三郎
同 西四〇三	同	横田 重一
同 西四〇四	同	藤田 定平
同 西四〇五	同	白井 實
同 西四〇六	同	荻野 勝治
同 西四〇七	同	久保 一幸
同 西四〇八	同	福澤 嘉吉
同 西四〇九	同	角田 治郎吉
同 西四一〇	同	山中 菊雄
同 西四一一	同	本塚 與作
同 西四一二	同	飯田 久吉
同 西四一三	同	阿久澤 幸作
同 西四一四	同	伊藤 吉藏
假勳西四一五	海軍司政官	尾崎 信
同 西四一六	同	江後 正二郎
同 西四一七	同	松見 武夫
同 西四一八	同	大庭 久雄

假勳西四一九	海軍少佐	市川 兼太
同 西四二〇	同	内藤 宗一
(通各) 同 西四二一	海軍教授	山崎 啓次郎
同 西四二二	同	前田 長美
同 西四二三	同	森尻 禮次
同 西四二四	同	村上 數美
同 西四二五	同	平野 磯七
假勳西四二六	海軍少佐	平石 廉
同 西四二七	同	岩元 正典
(通各) 同 西四二八	海軍大尉	奥野 長
同 西四二九	海軍大尉	小川 定勝
同 西四三〇	海軍教授	南 鬼久間
假勳西四三一	海軍少佐	佐藤 勝男
同 西四三二	同	宮坂 昌永
(通各) 同 西四三三	海軍軍醫大尉	太田 豊
同 西四三四	同	同
假勳西四三五	海軍少佐	同
同 西四三六	同	同
(通各) 同 西四三七	海軍法務中佐	同
同 西四三八	海軍少佐	同
假勳西四三九	海軍大尉	同
同 西四四〇	同	同

<p>○昭和十六年七月八日發令 假號四三三三 地方事務官 石澤 守雄 敍勳七等授瑞寶章</p> <p>○昭和十六年十一月十一日發令 假號四三三九 氣象技師 籾 益夫 敍勳七等授瑞寶章</p> <p>○昭和十七年四月八日發令 假號四三三四 海軍豫備大尉 澁谷 政光 敍勳六等授瑞寶章</p> <p>○昭和十七年八月十九日發令 假號四三三〇 海軍司政官 森岡 勝 敍勳七等授瑞寶章</p> <p>○昭和十八年十月九日發令 假號四三三七 海軍司政官 關口 保 敍勳七等授瑞寶章</p> <p>○昭和十八年十一月十一日發令 假號四三三九 海軍技師 鈴木 信 敍勳五等授瑞寶章</p> <p>假號四三六一 同 門脇 國郎 敍勳六等授瑞寶章</p> <p>○昭和十九年一月十八日發令 假號四三三六 海軍司政官 津々見仙市 敍勳五等授瑞寶章</p> <p>○昭和十九年二月十六日發令</p>	<p>假號四三三九 海軍司政官 江口 俊男 敍勳五等授瑞寶章</p> <p>假號四三三〇 海軍技術大尉 村上 博 敍勳六等授瑞寶章</p> <p>○昭和十九年五月十七日發令 假號四三四〇 海軍少佐 和田 陸雄 敍勳四等授瑞寶章</p> <p>○昭和十九年六月十三日發令 假號四四七三 海軍大尉 漆原 清久 敍勳六等授瑞寶章</p> <p>○昭和十九年七月十三日發令 假號四四八二 海軍大尉 河村百合人 敍勳六等授瑞寶章</p>	
--	---	--

0303

<p>内令第一二四三號 第六十號海防艦</p> <p>右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル 佐世保鎮守府在籍</p> <p>右警備海防艦ト定メラル 第六十號海防艦</p> <p>昭和十九年十一月九日 海軍大臣</p>	<p>内令第一二四四號 第二百十九號驅潛特務艇</p> <p>右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定ム 第二百十九號驅潛特務艇</p> <p>昭和十九年十一月九日 海軍大臣</p>	<p>内令第一二四五號 昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス 昭和十九年十一月九日 海軍大臣</p> <p>横須賀防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百十一號(横)」ヲ次ニ 「第二百十九號(横)」ヲ加フ (内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)</p> <p>内令第一二四六號 軍令承行令ノ特例ニ關スル件申左ノ通改定セラル</p>
<p>昭和十九年十一月十日 海軍大臣</p> <p>第二條第五號ヲ削ル 第三條ヲ第四條トス</p> <p>第三條 大東亞戰爭中軍令ヲ承行シ得ベキ海軍各部ノ長必要アリト認ムル場合ハ左ノ各號ニ付軍令承行令第一條及第二條ノ規定ニ拘ラス部下ノ將校、豫備將校(兵)、特務士官(兵)、准士官(兵)、豫備准士官(兵)及下士官(兵)ヲ通シ官階ノ上下任官ノ先後ニ依リ順次ニ軍令ヲ承行セシムルコトヲ得但シ任官同時ナルトキハ軍令承行令第一條及第二條ノ規定ニ準ズ</p> <p>一 特設飛行隊 二 飛行機隊</p> <p>(内令提要卷一、二頁参照)</p>	<p>内令第一二四七號 艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス 昭和十九年十一月十日 海軍大臣</p> <p>軍艦、航空母艦大鷹型ノ項中「雲鷹、」ヲ、同水上機母艦ノ項中「秋津洲」ヲ、同潜水母艦ノ項中「迅鯨、」ヲ、敷設艦ノ項中「八重山」ヲ、蒼鷹」ヲ削ル</p> <p>驅逐艦、一等卯月型ノ項中「皐月」ヲ削ル</p>	

<p>海防艦、占守型ノ項中「平戸」ヲ、同第二號型ノ項中「第十號」ヲ、同「五百島」ヲ削ル</p> <p>輸送艦、一等第一號型ノ項中「第三號、第四號、第五號」ヲ、同二等第一號型ノ項中「第百二十七號」ヲ、第百三十四號ヲ削ル</p> <p>驅潛艇、第一號型ノ項中「第十號」ヲ、同第十四號型ノ項中「第三十二號」「第五十五號」ヲ削ル</p> <p>(内令提要卷三、三三頁参照)</p>	<p>内令第一二四八號</p> <p>特務艦類別等級別表中左ノ通改正ス</p> <p>昭和十九年十一月十日</p> <p>海軍大臣</p> <p>測量艦ノ部中「勝力」ヲ削ル</p> <p>(内令提要卷三、四一頁参照)</p>	<p>内令第一二四九號</p> <p>特務艇類別等級別表中左ノ通改正ス</p> <p>昭和十九年十一月十日</p> <p>海軍大臣</p> <p>特務艇、驅潛特務艇第一號型ノ項中「第八號」「第三十九號」ヲ削ル</p> <p>(内令提要卷三、四三頁参照)</p>	<p>官房艦機密第二五號ノ一二四</p> <p>昭和十九年十二月十一日</p> <p>海軍大臣</p> <p>各鎮守府司令長官殿</p> <p>兵器簿ノ件通達</p> <p>海防艦兵器簿砲術長主管之部中左記ノ通改正ス</p> <p>記</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>區分</th> <th>類別</th> <th>品名</th> <th>數量</th> <th>摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>改正</td> <td>四十五口徑 十年式十二挺高角砲</td> <td>常裝通常彈藥包</td> <td>五〇〇個</td> <td>數量改正</td> </tr> <tr> <td>同</td> <td>同</td> <td>九一式時限信管</td> <td>五〇〇個</td> <td rowspan="2">高角砲裝備艦ノミ 數量改正 品名數量追加</td> </tr> <tr> <td>同</td> <td>同</td> <td>九一式傳火筒</td> <td>五〇〇個</td> </tr> <tr> <td>追加</td> <td>同</td> <td>對潛彈藥包</td> <td>二五〇個</td> <td rowspan="2">平射砲裝備艦ノミ 數量改正 品名數量追加</td> </tr> <tr> <td>同</td> <td>同</td> <td>對潛信管 二型</td> <td>二五〇個</td> </tr> <tr> <td>改正</td> <td>四十五口徑 三年式十二挺砲</td> <td>三號通常彈</td> <td>三〇〇個</td> <td rowspan="2">數量改正 品名數量追加</td> </tr> <tr> <td>同</td> <td>同</td> <td>二式信管 (五年式彈頭) 改一</td> <td>三〇〇個</td> </tr> <tr> <td>追加</td> <td>同</td> <td>對潛彈 炸藥共</td> <td>一五〇個</td> <td rowspan="2">平射砲裝備艦ノミ 數量改正 品名數量追加</td> </tr> <tr> <td>同</td> <td>同</td> <td>對潛信管 二型</td> <td>一五〇個</td> </tr> </tbody> </table> <p>官房艦機密第一七七八號</p> <p>昭和十九年官房艦機密第二七六號中左ノ通改正ス</p>	區分	類別	品名	數量	摘要	改正	四十五口徑 十年式十二挺高角砲	常裝通常彈藥包	五〇〇個	數量改正	同	同	九一式時限信管	五〇〇個	高角砲裝備艦ノミ 數量改正 品名數量追加	同	同	九一式傳火筒	五〇〇個	追加	同	對潛彈藥包	二五〇個	平射砲裝備艦ノミ 數量改正 品名數量追加	同	同	對潛信管 二型	二五〇個	改正	四十五口徑 三年式十二挺砲	三號通常彈	三〇〇個	數量改正 品名數量追加	同	同	二式信管 (五年式彈頭) 改一	三〇〇個	追加	同	對潛彈 炸藥共	一五〇個	平射砲裝備艦ノミ 數量改正 品名數量追加	同	同	對潛信管 二型	一五〇個
區分	類別	品名	數量	摘要																																														
改正	四十五口徑 十年式十二挺高角砲	常裝通常彈藥包	五〇〇個	數量改正																																														
同	同	九一式時限信管	五〇〇個	高角砲裝備艦ノミ 數量改正 品名數量追加																																														
同	同	九一式傳火筒	五〇〇個																																															
追加	同	對潛彈藥包	二五〇個	平射砲裝備艦ノミ 數量改正 品名數量追加																																														
同	同	對潛信管 二型	二五〇個																																															
改正	四十五口徑 三年式十二挺砲	三號通常彈	三〇〇個	數量改正 品名數量追加																																														
同	同	二式信管 (五年式彈頭) 改一	三〇〇個																																															
追加	同	對潛彈 炸藥共	一五〇個	平射砲裝備艦ノミ 數量改正 品名數量追加																																														
同	同	對潛信管 二型	一五〇個																																															

秘海軍公報 第四八五一號 昭和十九年十一月十四日

一四八九

0306

昭和十九年十一月十三日

海軍大臣

別表備考第四號中「海軍大臣」ヲ「所屬長官」ニ改ム

(参照) 海軍機密會計法規類集一八三頁

昭和十九年官房機密第二七六號ハ化學兵器手當支給規則ナリ

官房機密第一七七九號

海軍戰時特例給與規則中左ノ通告正ス

昭和十九年十一月十三日

海軍大臣

第一條ノ二中「俸給、給料(報酬ヲ含ム以下之ニ同ジ)、諸加俸(海軍給與令第三章ニ規定スル加俸、潜水艦特別任務加俸、潛航艇加俸及航空加俸ヲ謂フ以下之ニ同ジ)、増俸、公務傷病手當及臨時手當並ニ豫備員候補者ノ手當及増給」ヲ「俸給等諸給與(給料、報酬、戰時増俸、海軍給與令第三章ニ規定スル加俸、潜水艦特別任務加俸、潛航艇加俸、航空加俸、航海増給、在勤増給、公務傷病手當、宿舍手當、特別手當、臨時手當、僻地在勤手當、化學兵器手當、救治手當、結核病會勤務看護婦ノ手當、臨時家族手當、食料(戰時食料ヲ除ク)、豫備員候補者ノ手當(増給及加給ヲ含ム)、日本赤十字社救護員ノ手當並ニ昭和十二年官房機密第八號及昭和十五年官房機密第四三四號ノ規定ニ依ル増給ヲ含ム以下之ニ同ジ)」ニ改ム

時手當並ニ豫備員候補者ノ手當及増給」ヲ「俸給等諸給與」ニ改ム
第一條ノ四中「俸給、給料、諸加俸、増俸、公務傷病手當及臨時手當並ニ豫備員候補者ノ手當及増給」ヲ「俸給等諸給與」ニ、「増俸」ヲ「戰時増俸」ニ、「第一項ノ規定ハ賞與及臨時家族手當」ヲ「第一項及第二項ノ規定ハ賞與」ニ改メ同條第三項中「臨時手當」ノ下ニ「及食料」ヲ加フ
第一條ノ五中「俸給、給料、諸加俸、増俸、公務傷病手當及臨時手當並ニ豫備員候補者ノ手當及増給」ヲ「俸給等諸給與並ニ勤勉手當及戰時食料」ニ改ム
第二條、第二條ノ二、第二條ノ三、第二條ノ四、第二條ノ七、第二條ノ八及第十四條中「増俸」ヲ「戰時増俸」ニ改ム
第六條中「陸上勤務外宿中ノ下士官兵及」ヲ「及陸上勤務外宿中ノ下士官兵並ニ」ニ改ム
第八條ノ二第一項中「海軍給與令第七十九條ノ二」ヲ「海軍給與令第七十九條ノ七」ニ改ム
第十二條第二項中「及第六十二條」ヲ削ル
第二十三條ノ二海軍監獄看守及海軍警査ニハ海軍給與令施行細則第二百二十條ノ二及第二百二十條ノ四ノ規定ニ拘ラズ朝、朝日、冬服、夏服及手袋ハ之ヲ給與セズ帽前章ハ之ヲ貸與セズ
第二十四條中「候補生」ノ下ニ「見習尉官」ヲ加フ
第二十六條 日額ノ航空加俸、日額ノ化學兵器手當、勤勉手當及戰時食料並ニ昭和十二年官房機密第八號及昭和十五年官房機密

第四三四號ノ規定ニ依ル増給ニ對シ第一條ノ五第一項本文ノ規定ヲ適用スル場合ハ勤勉手當支給規則第六條及其ノ他ノ規定ニ拘ラズ前月ノ十一日ヨリ其ノ月十日迄ノ分ヲ其ノ月分トシテ支給スルコトヲ得

第一表中「増俸」ヲ「戰時増俸」ニ、

上等下士官		一、二級	三〇〇〇	ニ改ム
上等下士官		三、四級	一八〇〇	
上等下士官			一八〇〇	

第二表ノ二ヲ別表ノ如ク改ム

第六表備考第一號及第三號中「午後六時」ノ下ニ「十一月ヨリ翌年三月ニ至ル期間ニ於テ午前八時三十分以前ニ執務ヲ開始スル應ニ在リテ午後五時三十分」ヲ、同第四號中「旅費」ノ下ニ「交通費ノミノ支給ヲ受クル場合ヲ除ク」ヲ、同第五號ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ本表ノ食料ハ無報酬囑託者（贈與金ヲ受クル囑託者ヲ含ム）ニハ之ヲ支給セズ

附則

本令ハ昭和十九年十一月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス但シ第二十三條ノ二ノ規定ハ昭和十九年十月十一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

（別表添）

（参照）海軍機密會計法規類集一一二頁

○ 通 牒

官房第七〇九號

昭和十九年十一月十一日

海軍省 副官

海軍省構内各廳長

海軍艦政本部長

海軍電波本部長

海軍施設本部長

海軍省大構内各廳ノ呼稱ニ關スル件通牒

海軍省構内各廳、海軍艦政本部、海軍電波本部及海軍施設本部ヲ一括呼稱セントスル場合ハ海軍省大構内各廳ト呼稱シ差支ヘナキコトニ定メラレ候

運本機密第一六五九號

昭和十九年十一月十三日

海軍運輸本部長

關係各廳長 殿

海軍運輸部ニ於ケル内地鐵道輸送事務處理ニ關スル件申進

海軍運輸部（同支部及出張所ヲ含ム）ニ於ケル内地鐵道輸送計畫ニ關スル事務ハ概ネ左ノ區分ニ依ルコトト了知相成度

追テ昭和十七年五月十一日海運第二六號地方海軍運輸部ニ於ケル鐵道輸送事務處理ニ關スル件ハ自然消滅ノコトト了知相成度

0308

運輸部名	取扱區域
横須賀海軍運輸部	横須賀鎮守府管下但シ愛知、三重、岐阜縣下ヲ除ク
横須賀海軍運輸部名古屋支部	横須賀鎮守府管下中愛知、三重、岐阜縣下
吳海軍運輸部	吳鎮守府管下但シ九州地區ヲ除ク
吳海軍運輸部門司支部	吳鎮守府管下中九州地區
佐世保海軍運輸部	佐世保鎮守府管下
舞鶴海軍運輸部	舞鶴鎮守府管下
大湊海軍運輸部	大湊替備府管下但シ北海道及樺太地區ヲ除ク
大湊海軍運輸部札幌出張所	大湊替備府管下中北海道地區
大阪海軍運輸部	大阪替備府管下
其ノ他海軍運輸部 (同支部及出張所ヲ含ム)	當分ノ間取扱ハズ

○雜款

○部隊進駐

第三千二百十設營隊ハ十一月五日佐世保海軍施設部ヨリ長崎縣大村市ニ進駐セリ

○移轉

當隊十一月十五日山形縣北村山郡神町海軍航空基地ニ移轉ニ付十一月十四日以後到着見込ノ轉勤者ハ直接神町航空基地(奥羽本線神町驛下車徒歩約十五分)へ赴任セシメラレ度

(谷田部海軍航空隊)

○殘務整理
 第二百三十一、第二百三十四設營隊ハ十一月一日解隊殘務整理ハ百一施設部(イ一九 イ三〇)内ニ於テ之ヲ行フ

秘

海軍公報

第四八五二號

海軍大臣官房

昭和十九年十一月十五日(水)

○令 達

内令第一二五〇號

驅逐隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年十一月十日

海軍大臣

第三十驅逐隊ノ項中「牟月」ヲ削ル

(内令提要卷一、六八頁参照)

内令第一二五一號

潜水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年十一月十日

海軍大臣

第三十四潜水隊ノ項中「呂號第四十七、」ノ下ニ「呂號第四十九、」ヲ加フ

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第一二五二號

驅逐隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年十一月十日

海軍大臣

第三十一驅逐隊ノ項中「第十號、」ヲ削ル

(内令提要卷一、七二頁参照)

内令第一二五三號

横須賀鎮守府練習兼警備艦

軍艦 迅 鯨

吳鎮守府警備海防艦

海防艦 五百島

右役務ヲ解カル

吳鎮守府在役特務艦

特務艦 隱 戸

右第四豫備特務艦卜定ム

昭和十九年十一月十日

海軍大臣

内令第一二五四號

横須賀鎮守府在籍

軍艦 秋津洲

軍艦 迅 鯨

吳鎮守府在籍

軍艦 雲 鷹

秘海軍公報 第四八五二號 昭和十九年十一月十五日

一四九三

0311

<p>右帝國軍艦籍ヨリ除カル</p> <p>佐世保鎮守府在籍 軍艦 八重山</p> <p>舞鶴鎮守府在籍 軍艦 蒼鷹</p>	<p>右帝國驅逐艦籍ヨリ除カル</p> <p>佐世保鎮守府在籍 驅逐艦 阜月</p> <p>横須賀鎮守府在籍 海防艦 平戸</p>	<p>右帝國海防艦籍ヨリ除カル</p> <p>吳鎮守府在籍 海防艦 五百島</p> <p>佐世保鎮守府在籍 第十號海防艦</p>	<p>右帝國輸送艦籍ヨリ除カル</p> <p>吳鎮守府在籍 第三號輸送艦 第四號輸送艦 第五號輸送艦</p> <p>佐世保鎮守府在籍 第二百二十七號輸送艦 第三百三十四號輸送艦</p>
<p>横須賀鎮守府在籍 第三十二號驅潛艇</p> <p>吳鎮守府在籍 第五十五號驅潛艇</p> <p>舞鶴鎮守府在籍 第十號驅潛艇</p>	<p>右帝國驅潛艇籍ヨリ除カル</p> <p>吳鎮守府在籍 特務艦 勝利</p>	<p>右帝國特務艦籍ヨリ除カル</p> <p>昭和十九年十一月十日 海軍大臣</p>	<p>内令第一二五五號 昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス 昭和十九年十一月十日 海軍大臣</p> <p>第十特別根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第八號(横)」ヲ削ル 第三十一特別根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第三十九號(佐)」ヲ削ル (内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)</p> <p>内令第一二五六號 第八號驅潛特務艇 右本籍ヲ横須賀鎮守府卜定メタル處之ヲ解ク</p>

0312

第三十九號驅潛特務艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

昭和十九年十一月十日

海軍大臣

内令第二二五七號

昭和十八年内令第二五六號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十一月十日

海軍大臣

横須賀防備隊ノ項特設掃海艇ノ欄「第二文丸(横)」ヲ削ル
 第三南遣艦隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「最上丸(舞)」ヲ削ル
 第二十五特別根據地隊ノ項特設捕獲網艇ノ欄「檜丸(吳)」ヲ削ル
 第三十根據地隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「昭和丸(吳)」ヲ、特設掃海艇ノ欄「第三玉園丸(吳)」ヲ削ル
 第三十一特別根據地隊ノ項特設捕獲網艇ノ欄「興嶺丸(舞)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二九頁參照)

内令第二二五八號

汽船西貢丸

右特設巡洋艦トシ吳鎮守府所管ト定メラレタル處之ヲ解カル

汽船木曾丸

右特設砲艦トシ舞鶴鎮守府所管ト定メラレタル處之ヲ解カル

汽船檜丸

右特設捕獲網艇トシ吳鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

同 興嶺丸

右特設捕獲網艇トシ舞鶴鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

同 昭和丸

右特設驅潛艇トシ吳鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

同 最上丸

右特設驅潛艇トシ舞鶴鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

同 第二文丸

右特設掃海艇トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

同 第三玉園丸

右特設掃海艇トシ吳鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

同 西阿丸

右特設運送船(給兵船)トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

同 神洋丸

右特設運送船(給糧船)トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

同 第二永洋丸

同 あづさ丸

右特設運送船(給油船)トシ吳鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

同 興川丸

右特設運送船(雜用船)トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

同 乾祥丸

右特設運送船(雜用船)トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

同 能代丸

秘海軍公報 第四八五二號 昭和十九年十一月十五日

一四九五

0313

<p>ヲ解ク 汽船 興業丸 彌生丸 洛東丸 日營丸 第七大源丸</p>	<p>右特設運送船(雜用船)トシ吳鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク 同 南海丸 同 第七博鐵丸 同 昭慶丸</p>	<p>右特設運送船(雜用船)トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク 同 大島丸</p>	<p>右特設運送船(雜用船)トシ舞鶴鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク 昭和十九年十一月十日 海軍大臣</p>	<p>内令第一二五九號 昭和十九年内令第四三九號別表中左ノ通改正ス 昭和十九年十一月十日 海軍大臣</p>
<p>第二魚雷艇隊ノ項中「³⁰」ノ下ニ「³¹ ³²」ヲ加フ (内令提要卷三、四八ノ二七頁參照)</p>	<p>内令第一二六〇號 昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス 昭和十九年十一月十日 海軍大臣</p>	<p>第八十三警備隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ 第一特別基地隊 自第二百十五號軍艇(吳) 至第二百十七號軍艇(吳) 自第二百二十號軍艇(吳) 至第二百二十五號軍艇(吳)</p>	<p>官房醫機密第九號 海軍潛水艦乘員身體檢查戰時特例左ノ通定ム 昭和十九年十一月十三日 海軍大臣</p>	<p>海軍潛水艦乘員身體檢查戰時特例 大東亞戰爭中海軍潛水艦乘員身體檢查ニ關シ左ノ各號ニ規定スル事項ニ付テハ海軍身體檢查規則及海軍身體檢查手續ニ拘ラズ本令ニ依ルコトヲ得</p>

0314

一 海軍身體檢査規則別表第六ノ規格ヲ左ノ通トス

項目	准士官		士官		兵	
	以上	以下	六年未満	七年未満	十六年未満	十七年未満
身長(厘)	(一七五)(一八〇)	(一七〇)(一七五)	(一七〇)(一七五)	(一七〇)(一七五)	(一七〇)(一七五)	(一七〇)(一七五)
體重(斤)	(六〇)(七〇)	(五〇)(六〇)	(五〇)(六〇)	(五〇)(六〇)	(五〇)(六〇)	(五〇)(六〇)
胸圍(厘)	(七〇)(七五)	(六五)(七〇)	(六五)(七〇)	(六五)(七〇)	(六五)(七〇)	(六五)(七〇)
肺活量(立糧)	三〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇
握力(斤)	三五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇
呼吸保留(秒)	四八〇	三〇〇	四八〇	四八〇	四八〇	四八〇
備考	身長及體重ノ各項中插頭内ノ規格ヲ超ユル者ハ之ヲ不合格トス					

二 採用檢査ニ於テ實施スル身體檢査項目ヲ左ノ通トス但シ尿、血液、赤血球沈降速度及血壓ハ必要ト認ムル場合ノミ之ヲ實施スルモノトス

(一) 遺傳及既往歴
 (二) 齒
 (三) 身
 (四) 體
 (五) 胸
 (六) 肺
 (七) 握力
 (八) 胸圍
 (九) 胸圍
 (十) 腹
 (十一) 皮膚泌尿生殖器
 (十二) 赤血球沈降速度
 (十三) 視力
 (十四) 呼吸保留
 (十五) 聽力
 (十六) 聽器
 (十七) 定期檢査及臨時檢査ハ狀況ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得

○ 雜 款

秘海軍公報 第四八五二號 昭和十九年十一月十五日

○ 開隊

第三百二十九設營隊ハ十一月一日鹿兒島縣肝屬郡大迫ニ開隊セリ
 (古江線東中良驛下車徒歩約一時間)

○ 事務開始

驅逐艦花月艀裝員事務所ヲ十月二十九日舞鶴海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ
 鎮海海軍施設部教導設營班ハ十一月一日朝鮮慶尙南道昌原郡鎮海邑將川里ニ開隊事務ヲ開始セリ

驅逐艦樺裝員事務所ヲ十一月六日横須賀海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ
 第四百四十四號海防艦裝員事務所ヲ十一月九日兵庫縣相生市播磨造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第七十二號海防艦裝員事務所ヲ十一月九日東京都深川區豊洲二丁目東京石川島造船所第二工場内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○ 殘務整理終了
 吳潛水艦基地隊内第十二潜水隊殘務整理ハ十月二十八日終了、一括書類ヲ吳鎮殘務整理班ニ移管ノ上十月三十一日解散セリ

○ 殘務整理
 第七六二海軍航空隊豊橋派遣隊ハ十月十日解散殘務整理ハ鹿兒

0316

秘海軍公報 第四八五二號 昭和十九年七月十五日

島縣出水郡出水海軍航空隊内ニ於テ之ヲ行フ

○電話増設

松江 一五二五番 松江地方海軍人事部(部長室、部員室用)
追テ既設電話松江一六三三番ハ當部庶務室及宿直室用トス
(松江地方海軍人事部)

○本日海軍公報發行セズ

一四九八



海軍公報 第四八五三號

昭和十九年十一月十六日(木)
海軍大臣官房

○令 達

内令第一二六三號

右本籍ヲ鎮海警備府ト定ム
第二百四十八號驅潛特務艇

昭和十九年十一月十二日

海軍大臣 臣

内令第一二六四號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十一月十一日

海軍大臣 臣

鎮海防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第三百三十一號(鎮)」ノ次ニ「第二百四十八號(鎮)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二九頁參照)

内令第一二六五號

舞鶴鎮守府在籍

第六十七號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和十九年十一月十二日

海軍大臣 臣

秘海軍公報 第四八五三號 昭和十九年十一月十六日

官房艦機密第七〇四九號

大東亞戰爭中兵器經理規程第十四條及第十五條ノ規定ニ拘ラズ左ノ通處理スルモノトス

昭和十九年十一月十四日

海軍大臣 臣

- 一 艦隊所屬ノ各部ニ在リテハ兵器經理規程第十四條第一號、第二號及第三號(イ)ノ場合所屬長官ヲ經由セザルコトヲ得
- 二 海軍軍需部長兵器經理規程第十五條第一號、第二號(イ)及第三號(イ)ノ場合輕微ナル兵器ニ在リテハ第三號書式ノ請求書一通ニ意見ヲ附シ海軍艦政本部長ニ之ヲ送付スルモノトス
- 三 海軍艦政本部長前項ノ請求書ノ送付ヲ受ケ必要ト認ムルトキハ兵器經理規程第十條ノ規定ニ依リ之ヲ處理スルモノトス

官房醫機密第一〇號

左ノ各號ニヨリ海軍軍醫學校ニ於テ結核集團檢診ニ關スル講習ヲ施行ス

昭和十九年十一月十五日

海軍大臣 臣

- 一 講習課目
結核集團檢診法特ニエツクス線間接撮影手法及同讀影法
- 二 講習期日

一四九九

0317

第一回 昭和十九年十二月四日ヨリ 十二月十一日ヨリ 十二月十八日ヨリ 一月八日ヨリ 七日間 七日間 七日間 日間		第二回 十二月十一日ヨリ 十二月十八日ヨリ 一月八日ヨリ 七日間 七日間 七日間 日間		第三回 昭和二十年一月八日ヨリ 七日間 日間		第四回 昭和二十年一月八日ヨリ 七日間 日間	
三 講習指導官及輔佐官 (イ) 指導官 海軍軍醫學校長							
四 講習員 (ロ) 輔佐官 海軍軍醫學校 金井教官 同 同 横倉教官 同 同 小河軍醫少佐							
所	第一回	第二回	第三回	第四回	所	第一回	第二回
出水海軍航空隊 第二鹿屋海軍航空隊 相模野海軍航空隊 河和海軍航空隊 土浦海軍航空隊 三重海軍航空隊 鹿兒島海軍航空隊 郡山海軍航空隊 滋賀海軍航空隊 香取海軍航空隊	練習聯合航空總隊 司令官ノ指定スル軍醫科士官一名宛	練習聯合航空總隊 司令官ノ指定スル軍醫科士官一名宛	練習聯合航空總隊 司令官ノ指定スル軍醫科士官一名宛	練習聯合航空總隊 司令官ノ指定スル軍醫科士官一名宛	横須賀海兵團 武山海兵團 濱名海兵團 吳海兵團 大竹海兵團 佐世保海兵團 相浦海兵團 舞鶴海兵團 大阪海兵團	横須賀海兵團 武山海兵團 濱名海兵團 吳海兵團 大竹海兵團 佐世保海兵團 相浦海兵團 舞鶴海兵團 大阪海兵團	横須賀海兵團 武山海兵團 濱名海兵團 吳海兵團 大竹海兵團 佐世保海兵團 相浦海兵團 舞鶴海兵團 大阪海兵團
豊川海軍工廠 横須賀海軍工廠	各工廠長ノ指定スル軍醫科士官一名宛	各工廠長ノ指定スル軍醫科士官一名宛	各工廠長ノ指定スル軍醫科士官一名宛	各工廠長ノ指定スル軍醫科士官一名宛	海軍電測學校 館山海軍砲術學校 海軍電測學校	海軍電測學校 館山海軍砲術學校 海軍電測學校	海軍電測學校 館山海軍砲術學校 海軍電測學校
所	第一回	第二回	第三回	第四回	所	第一回	第二回
大湊海軍病院 霞ヶ浦海軍病院 戸塚海軍病院 野比海軍病院 山中海軍病院 岩國海軍病院 別府海軍病院 大村海軍病院 婿野海軍病院 鎮海海軍病院	各海軍病院長ノ指定スル軍醫科士官一名宛	各海軍病院長ノ指定スル軍醫科士官一名宛	各海軍病院長ノ指定スル軍醫科士官一名宛	各海軍病院長ノ指定スル軍醫科士官一名宛	兵學校長ノ指定スル軍醫科士官一名宛	兵學校長ノ指定スル軍醫科士官一名宛	兵學校長ノ指定スル軍醫科士官一名宛
同	同	同	同	同	同	同	同
所	第一回	第二回	第三回	第四回	所	第一回	第二回
鈴鹿海軍航空隊 洲崎海軍航空隊 三重海軍航空隊 奈良分遣隊 小松海軍航空隊 岡崎海軍航空隊 藤澤海軍航空隊 清水海軍航空隊 福岡海軍航空隊	練習聯合航空總隊 司令官ノ指定スル軍醫科士官一名宛	練習聯合航空總隊 司令官ノ指定スル軍醫科士官一名宛	練習聯合航空總隊 司令官ノ指定スル軍醫科士官一名宛	練習聯合航空總隊 司令官ノ指定スル軍醫科士官一名宛	吳海軍工廠 佐世保海軍工廠 光海軍工廠 舞鶴海軍工廠	吳海軍工廠 佐世保海軍工廠 光海軍工廠 舞鶴海軍工廠	吳海軍工廠 佐世保海軍工廠 光海軍工廠 舞鶴海軍工廠
各工廠長ノ指定スル軍醫科士官一名宛	各工廠長ノ指定スル軍醫科士官一名宛	各工廠長ノ指定スル軍醫科士官一名宛	各工廠長ノ指定スル軍醫科士官一名宛	各工廠長ノ指定スル軍醫科士官一名宛	各工廠長ノ指定スル軍醫科士官一名宛	各工廠長ノ指定スル軍醫科士官一名宛	各工廠長ノ指定スル軍醫科士官一名宛

0318

五 各所轄長ハ講習員ノ官氏名ヲ十二月二日迄ニ海軍省醫務局長及海軍軍醫學校長ニ通知スベシ
 六 指導官ハ講習修了後其ノ實施經過概要並ニ所見ヲ報告スルモノトス
 七 旅費
 講習員ノ旅費ハ請求ヲ俟テ別途配付ス

官房機密第一一號
 左ノ各號ニ依リ神經症及修練療法ニ關スル講習ヲ施行ス
 昭和十九年十一月十五日
 海軍大臣

一 講習課目、場所及期日
 (イ) 神經症ノ診斷及治療
 海軍軍醫學校
 昭和十九年十一月二十七日ヨリ六日間
 修練療法
 (ロ) 湊海軍病院
 昭和十九年十二月四日

二 講習指導官及輔佐官
 (イ) 神經症 指導官 海軍軍醫學校長 金井教官
 輔佐官 海軍軍醫學校 大野教官
 同 湊海軍病院長

三 講習員
 (ロ) 修練療法 指導官 湊海軍病院長
 講習員

秘海軍公報 第四八五三號 昭和十九年十一月十六日

各海軍病院長ノ指定スル軍醫科士官一名宛
 四 各海軍病院長ハ講習員ノ官氏名ヲ十一月二十五日迄ニ海軍省醫務局長ニ報告スルト共ニ海軍軍醫學校長及湊海軍病院長ニ通知スベシ
 五 指導官ハ講習修了後其ノ實施經過概要並ニ所見ヲ報告スルモノトス
 六 旅費
 講習員ノ旅費ハ請求ヲ俟テ別途配付ス

官房機密第二五號ノ一二五
 昭和十九年十一月十五日
 海軍大臣

各鎮守府司令長官殿
 兵器簿ノ件通達
 航空母艦兵器簿砲術長主管之部中左記ノ通改正ス
 記

區分	類	別	品名	稱數	數量	記
改正	四十口徑	八九式十二種七高角砲	通常彈藥包	個	宛付砲一門ニ減額	
同	同	同	九一式時限信管(商輪付)	個	宛付砲一門ニ減額	
同	同	同	九一式傳火筒	個		
追加	同	同	對潜彈藥包	個	宛付砲一門ニ	品名數量(累計)追加記入
同	同	同	對潜信管二型	個		

○通 牒

契三機密第二號ノ一七〇

昭和十九年十一月十五日

海軍省兵備局長
海軍省經理局長

關係各廳長殿

蘭製品需給統制ニ關スル件通牒

首題ノ件別紙海軍用蘭製品需給統制實施要領ニ依リ實施方可然
取計相成度

(別紙)

海軍用蘭製品需給統制實施要領

第一條 海軍用蘭製品ノ需給統制ハ本要領ニ依ル

第二條 本要領ニ於テ蘭製品ト稱スルハ壘表及莫蘆ヲ謂ヒ左ノ
二種ニ區分ス

第一種 海軍各廳ニ於テ直接購入スルモノ

第二種 海軍各廳ニ於テ發註ノ製品ニ直接必要ナル蘭製品ニ
シテ受註者ヲシテ配給機關ヨリ直接購入セシムルモノ

第三條 各廳ハ毎年七月一日ヨリ翌年六月三十日ニ至ル期間ノ
所要量ニ付別紙書式ニ依ル需要額調書ヲ作製シ其ノ二通ヲ

三月末日迄ニ關係主務部局ニ提出スルモノトス

主務部局ハ前項ノ調書ニ付審査ノ上各一通ヲ取纏メ四月十五
日迄ニ經理局ニ送付スルモノトス

第四條 經理局ハ海軍割當量ニ基キ定メタル主務部局別割當ヲ

關係主務部局ニ通知スルモノトス

主務部局ハ前項割當ノ範圍内ニ於テ所屬各廳ノ割當ヲ定メ之

ヲ關係各廳及經理局ニ通知スルモノトス

第五條 蘭製品ハ前條ノ割當ノ範圍内ニ於テ左ノ區分ニ依リ取
得スルモノトス

第一種 經理局ニ於テ締結スル統制契約ニ依ル

第二種 受註者ハ發註廳經由經理局ノ證明ヲ受ケタル註文書

ヲ全國蘭製品統制組合ニ送付シ同組合ヨリ購入ス

附 則

本要領ハ昭和十九年十二月一日ヨリ之ヲ實施ス

(別紙添)

○雜 款

○事務所移轉

海軍省人事局第三課ハ左記ニ移轉セリ

記

東京都目黒區大岡山

東京工業大學内 海軍省第三分室

○本日海軍公報發行セズ

(契一三機密第二號ノ一七〇別紙)

(昭和十九年十一月十六日秘海軍公報)

昭和 年度 齒製品 需要額 調査 廠名

種別	品名	數量(枚)	期別數量				記	事
			7月—9月	10月—12月	1月—3月	4月—6月		

0321

備考

- 1 種別ハ第二條ニ定ムル區分ニ依リ記入スルモノトス
- 2 品名ハ疊表及莢莖トシ、特殊寸法ノモノハ別記シ其ノ旨記事欄ニ記入スルモノトス
- 3 新設用及補修用ノ區分竝ニ其ノ用途別數量ヲ記事欄ニ記載スルモノトス



0322

海軍公報 第四八五四號

昭和十九年十一月十七日(金)
海軍大臣官房

○告示

海軍省告示第一號ノ九
昭和十七年海軍省告示第一號ノ九中「第三艦隊及」ヲ削ル
昭和十九年海軍省告示第一號ノ四ハ之ヲ廢止ス
昭和十九年十一月十五日
海軍大臣

(参照)
昭和十七年海軍省告示第一號ノ九ハ第三艦隊及第八艦隊ニ
艦隊軍法會議ヲ置クノ件ナリ(昭和十七年七月二十四日海
軍公報(部内限))
昭和十九年海軍省告示第一號ノ四ハ第一機動艦隊ニ艦隊軍
法會議ヲ置クノ件ナリ(三月十五日海軍公報(部内限))

海軍省告示第一號ノ一〇
第二艦隊軍法會議ヲ第三艦隊軍法會議及第一機動艦隊軍法會議
ノ後繼軍法會議ニ指定ス
昭和十九年十一月十五日
海軍大臣

○令 達

達第三六八號
第百二海軍工作部ニ於テ整備ノ戰利鋼製魚雷艇二隻ニ左ノ通命

名ス

昭和十九年十一月十五日
第百十九號魚雷艇(舊名飛礮)
第百二十號魚雷艇
海軍大臣

内令第一二三〇號ノ二

右本籍ヲ吳鎮守府ト定ム
第百二十二號驅潛特務艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム
第百三十四號驅潛特務艇

右本籍ヲ鎮海警備府ト定ム
第百四十二號驅潛特務艇

右本籍ヲ高雄警備府ト定ム
第百四十三號驅潛特務艇

昭和十九年十一月一日
海軍大臣

内令第一二三〇號ノ三

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス
昭和十九年十一月一日
海軍大臣

秘海軍公報 第四八五四號 昭和十九年十一月十七日

一五〇三

佐伯防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百五十五號(吳)」ノ次ニ
 「第二百二十二號(吳)」ヲ加フ
 佐世保防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百七號(佐)」ノ次ニ
 「第二百三十四號(佐)」ヲ加フ
 鎮海防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百三十號(鎮)」ノ次ニ
 「第二百四十二號(鎮)」ヲ加ヘ同項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

基隆防備隊	第二百四十三號(高)
-------	------------

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第一二六一號
 右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム
 昭和十九年十一月十日
 海軍大臣

内令第一二六二號
 昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス
 昭和十九年十一月十日
 海軍大臣

佐世保防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百七號(佐)」ノ次ニ
 「第二百三十三號(佐)」ヲ加フ
 (内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第一二六二號ノ二
 昭和十八年内令第一二號航空基地管理ニ關スル件中左ノ通改正
 ス
 昭和十九年十一月十日
 海軍大臣

横濱航空基地ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
 神ノ池航空基地 第七二一海軍航空隊

笠ノ原航空基地	笠ノ原航空基地
ヲ	ニ改ム
申良航空基地	

(内令提要卷一、三一ノ四一頁参照)

内令第一二六六號
 右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル
 昭和十九年十一月十三日
 海軍大臣

官房入第一一六二號
 國家總動員法第四條ノ規定ニ基キ海軍ニ徵用セラレタル者ノ中
 昭和十九年海軍省令第十八號(國家總動員法第四條ノ規定ニ基
 キ海軍ニ徵用セラレタル者ノ給與等ニ關スル件中改正)適用前
 同令ニ定ムル標準報酬額以下ノ初給額ヲ以テ報酬ヲ定メラレタ
 ル者ニ對シ來十二月一日附ヲ以テ新舊初給額ノ差額ヲ臨時増額

スルコトヲ得

前項ニ關スル細目ハ海軍省人事局長及海軍省經理局長ヲシテ所
要ノ向ニ之ヲ通牒セシム

昭和十九年十一月十五日

海軍大臣

○通牒

軍務一機密第一〇八五號

昭和十九年十一月十五日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

飛行機推進用動力タル噴進器及同附屬品ノ整
備取扱擔當區分ニ關スル件通知

首題ノ件艦船部隊ニ於テハ掌摺備兵之ヲ擔當スル義ト了知相成
度

軍需衣第一三五號

昭和十九年十一月十五日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

徵備船舶船員ニ給與ノ被服物品代價ニ關スル
件通牒

海軍徵備船舶船員給與規則第十三條ノ主ニ依ル被服物品代價ヲ
別紙ノ通改メ昭和二十年一月一日ヨリ實施相成度

追テ昭和十八年軍需衣第一四一號ハ昭和十九年十二月三十一
日限り廢止ノ義ト承知相成度

(別紙添)

(參照) 昭和十八年軍需衣第一四一號同年十月八日海軍公報(部内限)

醫豫機密第一七六八號

昭和十九年十一月十三日

海軍省醫務局長

關係各廳長殿

海軍兵備品會計規程戰時特例ノ施行ニ伴フ海
軍治療品經理規程ノ施行方ニ關スル件通牒

昭和十八年官房經第一〇三二號ニ依ル首題特例施行ニ伴フ治療
品經理規程ノ施行方其ノ他ニ關シテハ左記ニ依リ處理ノコトニ
了知相成度

記

一 治療品經理規程

(イ) 各條項ニ於テ供給、貸與ノ規定アルモノハ凡テ之ヲ供給
拂トス

(ロ) 兵備品會計官吏ニ關スル左ノ規定ハ兵備品補給主任ニ之
ヲ準用スルモノトス

第五條、第八條、第十條第一項前段、第十二條、第十五條
第一項、第十六條第一項、第二十一條、第二十二條、第二
十五條

(ハ) 兵備品取扱主任ニ關スル左ノ規定ハ兵備品補給主任ニ之

ヲ準用スルモノトス
 第十六條第一項、第十七條、第二十一條、第二十八條
 海軍病院ニ關スル左ノ規定ハ特設海軍病院ニ之ヲ準用ス
 ルモノトス
 第五條、第十五條

二 通 報

(イ) 兵備品會計官吏他所管ノ兵備品補給主任ニ治療品(定備
 療用品)ヲ供給拂シ又ハ之ヨリ還納受シタルトキハ所管海
 軍病院兵備品會計官吏ニ通報スルモノトス(證票寫送付)
 (ロ) 兵備品取扱主任ハ艦船部隊轉籍シタルトキハ治療品(定
 備療用品)現況調書ヲ新舊所管會計官吏ニ通報スルモノト
 ス(書式ハ還納票ニ準ズ)
 (ハ) 兵備品取扱主任相互間ニ於テ治療品(定備療用品)ヲ供
 給拂シタルトキハ供給拂シタル兵備品取扱主任ハ所管兵備

品會計官吏ニ通報スルモノトス(證票寫送付)
 (ニ) 兵備品取扱主任治療品(定備療用品)ノ受入又ハ處分ヲ
 爲シタル場合ハ所管兵備品會計官吏ニ通報スルモノトス
 (證票寫送付)

○ 雜 款

○廳舍移轉
 靜岡地方海軍人事部ハ十一月十日靜岡市追手町四番地ノ一新
 廳舍ニ移轉セリ
 電話靜岡局(八一)番

○正誤
 十一月七日附海軍公報雜款欄合同海軍葬儀執行期日「十一月
 二十五日」ハ「十一月二十二日」ノ誤

合同海軍葬儀執行

期 日 及 時 刻	大 東 亞 戰 争 戰 歿 者	喪 葬 管 理 者	場 所	記 事
十一月十八日 〇九二〇	故海軍少將和田純久外諸勇士	佐世保海軍入事部長	佐世保市 海軍凱旋記念館	拂式
十一月二十五日 一〇〇〇	故海軍軍屬山本吉植外諸勇士	鎮海海軍入事部長	鎮海邑海仁會集會所	神式

(軍需衣第一三五號別紙)

(昭和十九年十一月十七日海軍公報)

品名	稱呼	代	價	品名	稱呼	代	價
正帽	個	奏任待遇者用	九五〇〇	船内帽	個	冬夏用	七〇〇〇
冬衣袴甲	組	奏任待遇者用	五二〇〇〇	襦袢	同		五〇〇〇
冬衣袴乙	同	奏任、判任待遇者用	五〇五〇〇	夏袴	同		一五〇〇
冬衣袴丙	同	判任、備人待遇者用	二〇〇〇〇	袴下	同		四〇〇〇
夏衣袴甲	同	奏任待遇者用	二二〇〇〇	夏袴下	同		一〇〇〇
夏衣袴乙	同	奏任、判任待遇者用	二〇八〇〇	靴甲	組	奏任、判任待遇者用	一六五〇〇
夏衣袴丙	同	判任、備人待遇者用	六〇〇〇	靴乙	同	判任、備人待遇者用	一〇〇〇
外套套	個		六二〇〇〇	白半靴	同		一一〇〇〇
雨衣甲	同	奏任、判任待遇者用	四六〇〇〇	白シャツ	個		二八〇〇
雨衣乙	同	判任、備人待遇者用	二〇〇〇〇	カハラ	同		四五〇〇
防暑衣袴	組		六〇〇〇	手袋	同		六〇〇
作業服甲	同		六五〇〇	靴下	同		三〇〇
作業服乙	同		三五〇〇				

備考
 本表中甲、乙又ハ丙ノ區分アルモノハ概ネ左記ニ依ルモノトス
 冬服及夏服
 甲 船員服裝規程ニ依ル職員用(甲號)ノモノ
 乙 同 依ル職員用(乙號)ノモノ
 丙 同 依ル普通船員用ノモノ
 雨
 甲 船員服裝規程ニ依ル職員用雨衣
 乙 同 依ル普通船員用雨衣
 作業服
 甲 船員服裝規程ニ依ル職員用(甲號)ノモノ
 乙 同 依ル職員用(乙號)ノモノ
 半靴
 甲 海軍生徒半靴程度ノモノ
 乙 海軍下士官兵半靴程度ノモノ

0326



海軍公報 第四八五五號

昭和十九年十一月十八日(土)
海軍大臣官房

○週 牒

軍務一第二〇七號

昭和十九年十一月十七日

海軍省軍務局長
海軍省醫務局長

關係各廳長殿

感冒性疾患及凍瘡豫防ニ關スル件申進

對寒諸物資窮乏ノ折柄冬季ニ於テハ感冒性疾患特ニ肺炎及凍瘡ノ多發ニ因リ戦力ニ多大ノ影響ヲ及ボス虞大ナルヲ以テ各部ニ於テハ一層之方對策ヲ講ジ戦力保持上萬遺憾ナキヲ期セラレ度追テ具體的對策ニ關シテハ別途海軍省教育局及醫務局ヨリ送付セラレベク候

運本機密第一六六八號

昭和十九年十一月十六日

海軍運輸本部長

關係各廳長殿

海軍軍需品搭載ノ船舶運營會使用船ニ於テ共同海損事故發生セル場合ニ於ケル處理方法ニ關スル件照會

首題ノ件ニ關シ別紙甲號船舶運營會運航局長宛照會ニ對シ同乙號ノ通船舶運營會ヨリ各運航實務者ニ對シ通知有之候條了知相成度

(甲號)

運本機密第一四一五號

昭和十九年九月十六日

海軍運輸本部長

船舶運營會運航局長殿

海軍軍需品搭載C船ニ於テ共同海損發生ノ場合ニ於ケル處理方針ニ關スル件照會

共同海損ノ處理ニ關シテハ配當船ニ關スル限リ海軍配當船船腹備上契約書第二十條ニ「配當船ニ積載セル軍需品ニ關スル共同海損分擔金ハ海軍之ヲ負擔セズ」ト明記サレ海軍ニ於テ共同海損ノ分擔ヲ爲サザルコトト相成居候處右以外ノ船舶ニ搭載セル場合ニ付テハ一般の取極ナキ爲種々複雑ナル問題ヲ生ジ徒ニ事務ノ滯滞ヲ來タス虞有之候條自今C船搭載海軍軍需品ニ關シテハ配當船同様共同海損ノ分擔ヲ爲サザルコトニ取計ヲ得度追テ海軍ト損害保險統制會トノ間ニ於テハ左記取極ニ依リ處理致居候爲念

秘海軍公報 第四八五五號 昭和十九年十一月十八日

一五〇七

0327

記

共同海損ニ關スル取極事項

徵備船タルト運賃輸送船タルトヲ問ハス之ニ發生シタル共同海損ハ左ニ定ムル所ニヨリテ處理セラルヘキモノトス

一 軍當局ハ船船及積荷ノ救助ニ付キ其ノ支出シタル救助費ヲ

他ノ利害關係者ニ對シ其ノ分擔ヲ請求セズ

二 軍當局所有積荷ノ共同海損々害ハ軍當局ニ於テ之ヲ負擔シ

他ノ利害關係者ニ對シ其ノ分擔ヲ請求セズ

三 軍當局所有積荷ハ共同海損ノ分擔ヲ爲サス

四 船主若ハ保險者カ軍當局所有積荷ノ救助ニ多大ノ費用ヲ投

シ之カ救助ヲ爲シタル場合ハ右費用ノ負擔又ハ分擔ニ付キ船

主若ハ保險者ハ軍ニ特別ノ考慮ヲ求ムルコトヲ得、但シ運賃

輸送船ノ積荷ニ保險ヲ附シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

(乙號)

海軍運輸本部、損害保險統制會、本會、支部、出張所、駐在員
輸送部(部長課長) 契約部長、計劃部長、木船部長、主計
部長、管理部長

運輸總第一三四五號

昭和十九年十月一日

總務課

船舶運營會運航局長八幡屋春太郎

運航實務者御中

海軍軍需品ヲ搭載セル本會使用船ニ共同海損
事故發生シタル場合ノ處理方法ニ關スル件

頭記處理方法ニ就テハ本船ガ海軍配當船ナル場合ニハ海軍ハ之
ガ分擔ヲナサザル旨明カトナリオルモ(註一)右以外ノ一般本
會使用船積ノ場合ニハ別段ノ取極メ無カリシハ御既承ノ通りニ
有之候然處此程海軍當局ヨリ一般本會使用船積ノ場合ニモ凡テ
配當船ト同様海軍無關係(註二)トシテ處理スル様要請有之候
間右海軍要請通り海軍々需品積取第一船ニ選及實施スルコトト
致候ニ付左様御了承被下度候
右御通知迄

(註一) 海軍配當船々腹備上契約第二十條

「配當船ニ積載セル軍需品ニ關スル共同海損分擔金
ハ海軍之ヲ負擔セズ」

(註二) 共同海損處理ニ關シ海軍ハ損害保險統制會トノ間ニ

左記取極メヲナシ之ニ基キ處理セラレ居ル越ナリ從
ツテ「共同海損海軍無關係」トハ即チ本取極メノ趣
旨ニ依ルモノナリ

記

「共同海損ニ關スル取極事項」(甲號左記ト内容同ジニ付略)

○雜 款

○事務開始

第五十七號海防艦艇裝員事務所ヲ十一月六日横濱市鶴見區辨天町一七日本鋼管株式會社鶴見造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第二百三十八號驅潛特務艇艇裝員事務所ヲ十一月七日舞鶴海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

東京海軍監督官仙臺出張所ヲ十一月十日仙臺市南町太陽生命保險株式會社内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

電話仙臺 八六七番

○事務所撤去

第六十七號海防艦艇裝員事務所ハ十一月十二日之ヲ撤去セリ

呂號第五十六潛水艦艇裝員事務所ハ十一月十五日之ヲ撤去セリ

○電話番号變更及加入

新番號 舊番號

高輪 一三三五 高輪 一三二七

同 五六八五

同 四二五五

(第一海軍衣糧廠)

○訂正

十一月一日附祕海軍公報合同海軍葬儀執行期日字都宮地方海軍人事部ノ項中「十一月二十九日」ヲ「十一月二十三日」ニ訂正

○正誤

十一月六日祕海軍公報第四八四號令達欄特殊潛空機搭乗員ノ航空加俸等ノ支給ニ關スル件附則中「昭和十九年十一月一日」トアルハ「昭和十九年九月一日」ノ誤

(海軍省經理局)

合同海軍葬儀執行

期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場	所	記事
十一月二十日 一三〇〇	故海軍少佐吉永長四郎外諸勇士	熊本地方海軍人事部長	熊本市公會堂	佛式	
十一月二十七日 一〇〇〇	故海軍少佐福持 保外諸勇士	津地方海軍人事部長	津市四天王寺	同	
十一月三十日 〇九三〇	故海軍軍醫少佐河瀬龍外諸勇士	神戸地方海軍人事部長	神戸港軍隊休憩所	同	

祕海軍公報 第四八五號 昭和十九年十一月十八日

一五〇九